

小学生の部

《特選》

人権と正義

城東小学校 5年

林 はやし 亜美 あみ さん

私は道徳の勉強をして、ぜったいに、人をいじめたり暴言を言ったりすることはいけないと思えました。なぜなら、後でぜったいこうかいするし、言った暴言はとりけすことができないからです。

この私が勉強した道徳のお話は、理科のテストが原因でみんなから仲間はずれにされるお話です。クラスのリーダーのミッコは頭がよくクラスでテストの点数も一番ですが、たまたま親友にテストの点数をぬかされ、それがくやくしくてみんなに「親友の井上さんとは仲良くしちゃダメ。」と言います。その中

いで井上さんはみんなから仲間はずれにされます。もし、私だったら悲しくて泣いてしまうかもしれません。しかし、その数日後、井上さんの筆箱の中にある手紙が入っていました。「わたしは杉田さんの言うとおりにしているけれど、井上さんをほんとうにきらいなわけではないのよ。」という手紙です。このとき井上さんはむねの中にとぼと明かりがともったような気持ちになりました。私だつてきつとそうです。一人だけではなくったと思えるからです。この話のようにいじめをされると、とても悲しい気持ちになります。だから、ぜったいにいじめをしてはいけないと思いました。

の文章にやなせさんの正義の考えが書いてあったことです。「本当の正義とはおなかです。」「本当の正義とはおなかです。」「本当の正義とはおなかを分けてあげることなんだ。」これを見て、人に食べ物を分けることは、命を支え、助けることだと思いました。けれど、いじめは人をきずつけ、悲しませるだけだし、また暴言を言うことは見えないきょうきで人の心をきずつけています。つまり、人を大切に思わず、その人の一人一つの命をきずつけ自殺にまでおいこんでしまうことだと思えました。「世界に一つの命を守る。」これが私の正義です。だから、「自分がきずつくかもしれない」そんな考えはおいはらい、みんなが幸せに笑顔でくらせる社会にするためにたくさんの人を助け、私なりの正義で人権を守っていききたいです。

《選評》

「いじめ」や「差別」は、された人も、した人も、決して幸せな気持ちにしないものです。いじめなどを受けたとしても、された人の気持ちを理解し、励ましてくれる人が一人でもあれば、その人はまた元気を出せるでしょう。やなせたかしさんの伝記を学習して、自分の正義は「世界に一つの命を守る」と言い切る、その力強さに芯の強さが感じられるいい作文です。